

デビルマン1972年

【概要】

変身ヒーローもの企画として、永井豪が自作品『魔王ダンテ』（「ぼくらマガジン」連載）をベースに「悪魔をヒーローとした作品」として基本設定を行い、漫画版は永井豪が執筆し、『週刊少年マガジン』の1972年25号（6月11日号）から1973年27号（6月24日号）にかけて全53話で連載された。同時期に、NETテレビではテレビアニメ版で脚本担当の辻真先がオリジナルストーリーを構成した。両作には「漫画作品のアニメ化」もしくは「アニメ作品の漫画化」といった関係ではなく、永井自身が指摘しているような「同一の基本設定を使用して描かれた2つの作品」という関係に近い。漫画版のテーマは「ホラー」であり、古典的なホラーからモダンホラーまで、様々な要素が見られる。また連載当時、購読者層がTVよりも高く大学生までだったこと、永井自身の描きたいテーマを深めたいという希望を編集部と同意したことなどから、連載を経るごとに黙示録的な大河要素のある構成へと変遷していった。これに対し、アニメ版はTV視聴者を対象に漫画より幅広い年齢層の視聴者に向けて、原則一話完結のヒーローものの体裁を取っている。

【テレビ版概要】

漫画版は人間・不動明がデーモン族を吸収する形でデビルマンとなった（デーモンの力を持った人間）のに対し、テレビアニメ版は主題歌に歌われているように「人類滅亡をもくろむデーモン族の妖獣とデーモン族の裏切り者であるデビルマンが人間を守るために戦う」というストーリーで、不動明は体も意識もデーモンに乗っ取られている（人間の姿をしたデーモン）という基本設定が漫画版とは大きく異なる。作者の個性によって設定が拡大し、終末テーマの大作SFへと発展していった漫画版に対して、テレビアニメ版はデビルマンが妖獣と戦う一話完結のストーリーという基本線を守り続け、ヒーローものとしてのスタンダードな展開を最後まで全うした。ただしほとんどのエピソードの脚本を手掛けた辻真先が永井豪作品のファンであり、そのテイストを意識してストーリーを展開したため、「勤善懲悪に終わらない毒のあるストーリー」「ギャグやブラックユーモアも交えた展開」など、永井作品の特色は十分に生かされていた。「戦中族」を自認する辻真先によると本作は「中国大陸で脱走した日本兵が、娘を守って日本軍をやっつける話」とのこと。脱走した日本兵はいずれ処刑される運命であり、漫画版に劣らない悲惨な最期である事が示唆されている。物語はデーモン族との決着がつかぬまま終了し、約4か月後に公開された映画『マジンガーZ対デビルマン』においてその後もデーモン族と戦い続ける姿が描かれている。

【テレビアニメ版の設定】

漫画版では学生服を着用している不動明であるが、原作者の「不良っぽいヒーロー」像が児童番組では差し支えがあり、高校生という事を曖昧にするために私服を使用している。同原作者の漫画版で『マジンガーZ』や『ゲッターロボ』でも主人公たちは学生服を着用しているが本作と同様な事情で全て私服に変更されている。日常は明たちが通う名門（なかど）学園を舞台にしている。小中高一貫の学校であるため、美樹の弟・健作ら小学生たちもドラマに関わっている。永井の『キッカイクン』からのスピノフキャラとして、アルフォンヌ、ポチ、轟が登場する一方、木刀政らに相当するキャラは登場しない。毎回送られてくるデーモン族の刺客＝妖獣と戦うため、不動明は「ディヴィール」の掛け声とともにデビルマンに「変身」して戦う。当初、妖獣たちは裏切り者であるデビルマンの粛清を主な目的とするが、物語中盤以降は、妖獣の行う無差別テロに牧村美樹らが巻き込まれ、明がそれに介入・阻止するのが基本フォーマットとなる。人間というものが理解できない、との発言も見られる。あくまでも主人公はデビルマンという名前のデーモン族であり、漫画版と異なりデビルマンは個人名である。不動明の意思はデビルマンに吸収されて消えているが、永井豪は「美樹への恋愛感情など、明の意思も生きてデビルマンの人格に影響している」と語っている。明＝デビルマンの目的は人類全体の守護ではなく、あくまで美樹個人とその関係者を守る事であり、人類への帰属意識は極めて薄い。美樹に影響がない限り、他の者への被害を積極的に食い止めようとは考えていないが辻真先以外の者が脚本を担当した第5話などには若干の混乱が見られる。人間界に明の正体を知る者はなく、基本的に協力者はいない。後半はデーモン族を裏切った妖獣ララのみが、明の正体を知りつつコメディリリーフ的に協力している。テレビアニメ版はコメディ色を濃くして制作されたが、やはり「暗い」「残酷」という視聴者の反応が多かったため、ララのキャラクターが創作されたという。なお、これ以前にもデビルマンに好意的な妖獣（第12話のファイアム）は登場しているが、1話のみでレギュラーとはならなかった。また、映画『マジンガーZ対デビルマン』においては、マジンガーZの操縦者・兜甲児に正体を明かして共闘している。最終回で妖獣ゴッドが明と美樹の絆を絶とうと、彼がデビルマンであることを暴露し目の前で変身させる。しかし美樹はゴッドが変身させたのだと言い返し、闘いが終わった後も怖くないのかと問われて「明君は明君だもん」と応えている。漫画版で重要な役割を果たす妖獣シレーヌやサイコジェニーが、単なる単発の敵扱いとなっている。また、漫画版では「魔将軍ザン」は名前のみで姿を見せないが、魔将軍ザンニン、妖将軍ムザン、ゼノンと対等に近い地位にあるらしい妖元帥レイコックと、魔王ゼノンの配下の幹部が登場し、デビルマンに倒されることに交代している。なお、サタンについては一切言及されていない。漫画版ではデーモン族の本拠地は南極などの永久氷の中ではないかと言われてはいるものの不明である。一方、TV版ではヒマラヤと明示されている。その他にも、光線技を使う度に技の名前を叫ぶ。人間時に受けた傷が、変身して巨大化すると数倍に広がり、苦痛が酷くなる。デビルマンのキャラクターデザインが、漫画版よりヒーロー的にされている。漫画版の飛鳥了に相当する氷村巖は、役割や正体が大きく異なっている。など変更されている。了は当初は使い捨てのキャラクターの予定であり、永井がその正体や裏設定を思いついたのは物語中盤以降だったためである。漫画におけるデビルマンのデザインは、妖獣ゴッドのデザインに受け継がれている。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



1972年デビルマン



【魔王ゼノン】

声 - 柴田秀勝

デーモン族の長。本作に関してはサタンは未登場で彼が最高権力者となっている。普段は蝙蝠のようなシルエットで登場するが、第10話では頭部に3面、胸部と腹部に2面、頭部に2本の角を持ち、全身を毛に覆われた正体を現した。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

【魔将軍ザンミン】

声 - 増岡弘 / 中曽根雅夫 (第12話 - 第14話)

第4話 - 第14話に登場。人間界征服とデビルマン討伐で後れをとっている魔王ゼノンが業を煮やして呼び寄せた初代幹部。

性格は直情型。胸にある眼は反射板になっており、デビルビームをも跳ね返す。尻尾は鞭として使用。

魔将軍と呼ばれているだけあって他の妖獣からも恐れられている。一方で彼を嫌う妖獣も少なくなく、ゼノンがザンミンの指揮下に入るよう命じると、露骨に不快感を示す妖獣もいた(ロクフェル、マーメイムなど)。

デーモン族の拠点であったヒマラヤの地下でデビルマンと決戦に及び、戦死する。

後に『マジンガーZ対デビルマン』で復活し、妖獣軍団の指揮を執った。

【妖将軍ムザン】

声 - 矢田耕司

第15話 - 第25話に登場。ザンミン亡き後、後任として登場した三代目幹部。

ザンミンよりは部下を思いやる面もあるが自分に従順でない妖獣には容赦がない。多数の尻尾がある。肩書きは、当初はザンミンと同じ「魔将軍」だったが、第23話から「妖将軍」になっている。異次元空間をコントロールする能力を持ち、名門学園全体を異次元空間に封じてデビルマンと対決するが敗北した。

2021.05.12

<https://majingai.x.fc2.com>

1992年テレビマガジン



【サブタイトル】

- 第1話 悪魔族復活
- 第2話 妖獣シレーヌ
- 第3話 妖獣ゲルグ
- 第4話 魔将軍ザンニン
- 第5話 眠れる美女 ゾルドバ
- 第6話 ロクフェルの首
- 第7話 恐怖の人形使い ズール
- 第8話 イヤモンとパウウ
- 第9話 脳波妖獣ゴンドローマ
- 第10話 妖獣ガンデェ 眼が歩く
- 第11話 真紅の妖花 ラフレール
- 第12話 火焰妖獣ファイアム
- 第13話 誇り高きマーメィム
- 第14話 水の国への挑戦
- 第15話 妖獣エバイン 千本の腕
- 第16話 闇に住む 妖獣ジェニー
- 第17話 切手妖獣ダゴン
- 第18話 銀色の魔矢子
- 第19話 妖獣アダル 人形作戦
- 第20話 さらば妖獣ドラゴン
- 第21話 妖獣ドローは人間が好き
- 第22話 妖獣ムガール 幻影の魔術師
- 第23話 妖獣ペラ チベットの怪
- 第24話 妖獣ジャコン 生きている幽霊
- 第25話 妖将軍ムザン 学園大襲撃
- 第26話 白銀の妖獣ララ
- 第27話 妖獣ジュエル 果てなき欲望
- 第28話 妖獣ミニヨン 悪魔のペンダント
- 第29話 妖獣ケネトス 謎のネックレス
- 第30話 妖獣ファイゼル 影に狂う
- 第31話 妖獣キルスキイ 真紅の旋風
- 第32話 妖獣オーロラ 輝く牢獄
- 第33話 妖獣ウエザース 太陽の反乱
- 第34話 妖獣アルロン 恐怖のマキシ
- 第35話 妖元帥レイコック 凍れる学園
- 第36話 妖獣マグドラー 空飛ぶ熔岩
- 第37話 妖獣ウッドドウ 怒れる緑
- 第38話 妖獣ドリムーン 月は地獄だ
- 第39話 妖獣ゴッド 神の奇蹟

脚本	演出	作画監督
辻真先	勝間田具治	小松原一男
明比正行	白土武	浦田又治
山崎忠昭	白根徳重	森利夫
辻真先	西沢信孝	荒木伸吾
高久進	設楽博	白土武
辻真先	新田義方	森利夫
辻真先	鈴木実	小松原一男
辻真先	中村一夫	福本智雄
辻真先	白土武	横井三郎
辻真先	落合正宗	福本智雄
辻真先	津乃一	横井三郎
辻真先	森利夫	福本智雄
辻真先	小松原一男	辻忠直
辻真先	邦原真琴	浦田又治
辻真先	落合正宗	尼寺一美
辻真先	山口秀憲	森利夫
辻真先	白土武	白土武
辻真先	佐々木正広	小松原一男
辻真先	白土武	秦秀信
辻真先	山口秀憲	森利夫
安藤豊弘	山口秀憲	森利夫
辻真先	佐々木正広	小松原一男
落合正宗	尼寺一美	横井三郎
辻真先	白土武	白土武
辻真先	山口秀憲	森利夫
辻真先	勝間田具治	小松原一男
辻真先	高見義雄	白土武
辻真先	白根徳重	落合正宗
辻真先	明比正行	高倉建夫
辻真先	小湊洋市	白土武
辻真先	山口秀憲	森利夫
辻真先	佐々木正広	小松原一男
辻真先	白土武	白土武
辻真先	落合正宗	尼寺一美
辻真先	明比正行	高倉建夫
辻真先	勝間田具治	白土武
辻真先	山口秀憲	森利夫
辻真先	勝間田具治	小松原一男
辻真先	白根徳重	白土武
辻真先	小湊洋市	白土武

【妖獣ララ】声：沢田和子
 第26話～36話に登場。頭が悪く他人の気持ちを読めない天然系の美少女。物質を変形させて別の物質を作り出す能力があり、自身の老婆のような崩れた顔も美少女に変形させている。戦闘力はほとんど無く頭も悪いため、妖獣たちからも軽視されていた。デビルマン=明に愛されていると誤解し、デーモン族を裏切ることになる。その性格のため、明やミキたちを振り回すことも多かったが、明にとっては自分の正体を知る友人でもあり、結果的にデビルマンを援護することも多かった。妖獣マグドラーの火炎弾を浴びて炎上し、明の目の前で消滅した。

【妖元帥レイコック】声：里見京子
 第27話～35話に登場。三代目幹部で、ゼノンにデビルマン討伐の戦には新たな魔王となることを約束された女性デーモン族。普段は下半身が4つ足の半人半獣であるが、デビルマンとの直接対決で獣が燃え尽きて消滅するもドレス姿の人間の姿を現している。それまでの前任者より頭脳的な作戦を展開した。身にまとった衣服や装身具はすべて配下の妖獣（ジュエル、ミニヨン、ケネトス、ファイゼル、キルスキイ、ウエザース、実妹アルロン）が化身したものである。配下の妖獣をすべてを倒された末、デビルマンに直接対決を挑み、自らの時間を操る能力でデビルマンを翻弄するが、命の源であるバックルを破壊されて敗北した。
 出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2021.05/13

1972年デビルマン

- 北浜晴子 (テレビアニメ版)
- 里見京子 (マジンガーZ対デビルマン)
- 榊原良子 (OVA版〈妖鳥死麗濡編〉、CBキャラ 永井豪ワールド、スーパーロボット大戦DD)
- 田中敦子 (PS版ゲーム『デビルマン』、DEVILMAN crybaby)
- 富永愛 (実写映画版)

【妖獣シレーヌ】

デビルマン明への最初の刺客。美女の容姿のベースに、頭に巨大かつ美しい羽根を、手足に強力なカギ爪を持つ。セイレーンがモチーフ。部下たちを倒した明の隙をつき、捕縛する。そのまま大魔王ゼノンのもとに連行しようとするが、飛鳥了の横槍で失敗し、地上で明と死闘を繰り広げた末に重傷を負う。その時加勢としてカイムらが出現、決死の合体によりカイムの角で明を貫くが、どどめを刺す直前に勝利を確信した微笑を浮かべたままことされる。「愛蔵版」ではアモンに憧れを寄せる場面が追加されており、それゆえにアモンの身体を乗取った明を激しく憎んでいることが強調されている。なお、辻真先の小説に当てた永井豪の解説では、シレーヌの名前とイメージは辻がアニメ用に作ったもので、そこから永井がキャラクターデザインをし、このキャラクターを気に入った永井が漫画に逆輸入した事が明かされている。

【人物像】

漫画版

人間の美女に、頭部から猛禽類の美しく白い翼を生やしたデーモン。その姿から「妖鳥シレーヌ」の異名を持つ。分離してブーメランのような武器になる両腕と鋭い爪を武器にしている。格調高いセリフも話す。デビルマンと死闘を繰り広げる内にお互いに「何を寝ぼけてやがる」等々のガラの悪い喋り方に変わってゆく。原作漫画前半にて、不動明/デビルマンに対する刺客として襲撃してきた。部下であるアグウェルとゲルマーに牧村家を襲撃させ、2人を倒して疲労し、油断した明を背後からの不意打ちで捕らえた。電流の流れる鉤爪で変身不能に陥らせそのまま魔王ゼノンの元に連行しようとするも、飛鳥了の妨害により失敗し、明に変身を許してしまう。そしてデビルマンと空中戦を展開するが、苦戦を強いられ地上戦に移る。右腕を飛ばしてブーメランにする攻撃方法でデビルマンの左腕を切断し、鳩尾にも深手を負わせる。しかし、デビルマンに逆に自分の爪を利用され誤爆して腹部に致命傷を負われ、さらに片翼を挽がれて瀕死の状態に陥る。魔王ゼノンに助けを請うと旧知であるカイムが出現し、合体して自らの身体と能力を用いるよう申し出る。当初はカイムを犠牲にすることを躊躇っていたが、カイムが命を捨てる覚悟を決めて尻尾で彼自身の首を捻じ切ったため、その意を汲んで合体する。合体してカイム・シレーヌとなりデビルマンと対決、カイムの角から放つ電流でデビルマンにダメージを与え、そのままカイムの角でデビルマンの鳩尾を貫き戦闘不能に陥るほどの重傷を負わすも止めを刺す寸前に絶命しそのまま立ち往生した。その最期の姿の、勝利を確信した笑顔を見た明は心の中で「美しい」と呟いた。永井豪の自伝的漫画『激マン!』による本シーンへの言及によれば、当初は戦闘しながら「デビルマンが空中でシレーヌをレイプする空中ファックを入れる予定」であったことが判明している。これは原作者のながい激が『ハレンチ学園』を描いたことにより、世間からハレンチ漫画家と烙印を押されたので決定的にしてしまおうと考えたためであるが、これは「マネージャーと担当の猛反対」により没にされている。しかし後に『DEVILMAN crybaby』でようやく描かれた。

テレビアニメ版

漫画版と違って一介の妖獣として登場。外見は漫画版に近いが、胸や腹部を羽毛で覆っており、露出が控えられている他に肌の色が青くなっており、翼も青系となっている。デビルマンを元の「デーモンの勇者」に戻すために牧村美樹を攫って人質にし、不動明の姿のデビルマンに美樹を助けただければデーモン族に戻れと迫る。戦闘ではほぼ劣勢となり一方的に攻撃で追い詰められ、デビルビームを受けて蒸発し死亡した。

映画『マジンガーZ対デビルマン』

マジンガーZに破壊された機械獣の爆発が切っ掛けとなって復活。都市を破壊した後、ヒマラヤへ向かい魔将軍ザンニンを捜し求めた。ドクターヘルに追跡され、テレパシー光線銃を撃ち込まれてザンニン・妖獣ブゴと共にヘルの協力者となる(実質的には配下に近い)。完成間近のジェットスクランダーを破壊、弓さやかと兜シローを攫うなどの活躍を見せ、最終戦でもデビルマン捕獲に一役買った。しかし、完成したスクランダーを装着したマジンガーZに敗れる。外見はテレビアニメ版に準ずる。

なお、テレビアニメ版の北浜晴子は、レギュラーの敵キャラクターである「あしゅら男爵」(の片方)として本作に参加している。

OVA『CBキャラ 永井豪ワールド』

ギャグストーリーゆえか人の名前を覚えるのが苦手。アモンに想いを寄せており、彼から魂の中核を抜き取った大魔神サタンを憎んでいる。その中核を用いて創造されたデーモンがいることは知らない。

(以下デビルマンレディー・小説版・AMON デビルマン黙示録・デビルマンG省略)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



2021.05.13

映画マジンガーZ対デビルマン 1973年

『マジンガーZ対デビルマン』（マジンガーゼットたいデビルマン、英文:Mazinger VS Devilman）は、1973年7月18日に東映まんがまつりの一編として公開された日本のアニメーション映画。

【概要】
共に永井豪が原作を担当したテレビアニメ、『マジンガーZ』と『デビルマン』のクロスオーバー作品。世界観については『マジンガーZ』がベースとなっており、そこに本作公開時点では放映終了していた『デビルマン』のデビルマンらがゲスト出演する形となっている。『マジンガーZ』の劇場オリジナル作品としては本作が初であると同時に、今日では定番となっているテレビアニメの劇場公開用オリジナル作品の先駆けでもある。本作以前のヒーローものでのクロスオーバーは、『帰ってきたウルトラマン』におけるウルトラマン・ウルトラセブンの登場や『仮面ライダーV3』での仮面ライダー1号・仮面ライダー2号の登場といったシリーズ内での登場や、『キングコング対ゴジラ』（怪獣対怪獣）のような同ジャンルでの共演などがほとんどであったが、本作では巨大ロボットと変身ヒーローという異色の組み合わせとなっている。以下のロボットアニメ（『マジンガーZ』や『ゲッターロボ』など）はフジテレビ系列で統一されているが、本作の『デビルマン』だけがNET系列の作品であり、実現は難しいと思われていた。しかし、『デビルマン』のテレビ放送が終了済みであったことや原作者の希望でNET系側からの認可も降り、実現することになった。その後、局の組み合わせで『UFOロボ グレンダイザー対鋼鉄ジーグ』の企画もあったが実現せず、その代わりに作られたのがフジテレビ系列で統一された『UFOロボ グレンダイザー対グレートマジンガー』である。本作のもう一つの見どころとして、テレビ版に先駆けてのジェットスクランダーの登場が挙げられる。以降の劇場版マジンガーシリーズでは、テレビ版を先取りした展開が恒例となる。本作に登場するジェットスクランダーは尾翼のマークが「Z」であるなどテレビ版とデザインが異なり、翼のポジションもマニュアル操作（テレビ版はオートマチック方式）である。『デビルマン』側においてもシレーヌのデザイン設定がテレビ版と異なるほか、デビルマン・不動明の設定もテレビ版より原作に近いものになっており、魔将軍ザンニンが「悪魔の秘密を知り、悪魔の能力を得た不動明、いやデビルマン」と発言するほか、シレーヌが光子力研究所を襲撃する際の台詞も原作のものを引用しており、明も「デーモン・ハンター」を自称している。企画には、双方のテレビ作品をプロデュースした有賀健のほか、『マジンガーZ』の第2話・第6話・第13話を演出した勝田稔男が企画部に配属されて初のプロデュースを担当した。勝田は本作の後も同じく永井作品『キューティーハニー』で初のテレビ作品プロデュースを経て、永井のロボットアニメ『ゲッターロボ』・『ゲッターロボG』・『UFOロボ グレンダイザー』をプロデュースし、『マジンガーZ』の横山賢と双璧をなす東映動画ロボットアニメのプロデューサーとなる。なお、タイトルでは「対」となっているが、作中には兜甲児と不動明による主人公同士のバイクレースが描かれるのみで、マジンガーZとデビルマンの対決は描かれていない。しかし、本作以降は実際に対決しない内容であってもタイトルに「対」もしくは「VS」と付けられるクロスオーバー作品が、多々登場するようになった。予告編完成前に公開された「特報」（双方ともナレーターは野田圭一が担当した）では、映画では登場しなかった機械獣と妖獣が登場するほか、パイルダーを操縦している甲児がゴーグルを降ろしていないNG版が存在する。マジンガーZが機械獣にプレストファイヤーを浴びせる場面や、デビルマンが妖獣に膝蹴り・チョップ・デビルビームを浴びせる場面は、双方のオープニングアニメーションから流用している。また、「特報」のBGMでは、本編では使用されなかったテレビ版オープニングテーマ「マジンガーZ」のインストルメンタルを使用している。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

【製作・スタッフ】

- 製作: 登石雋一、フジテレビ（マジンガーZ）
NETテレビ（デビルマン）、東映
- 製作担当: 茂呂清一
- 企画: 有賀健、勝田稔男
- 原作: 永井豪とダイナミックプロ
- 脚本: 高久進
- 音楽: 渡辺宙明（マジンガーZ）、三沢郷（デビルマン）
- 原画: 奥山玲子、金山通弘、小田克也、木野達児
菊池貞雄、窪詔之、小松原一男、白土武、中村一夫
森英樹、小林敏明、小川明弘、坂野隆雄、薄田嘉信
- 動画: 服部照夫、阿部隆、長沼寿美子、山田みよ
- 背景: 勝又淑、赤保谷アイ子、勝俣希公美子
柿沼雅人、福田和矢、佐野光成
- 演出助手: 遠藤勇二
- 製作進行: 吉岡修
- 美術監督: 浦田又治
- 作画監督: 角田紘一
- 演出: 勝間田具治